

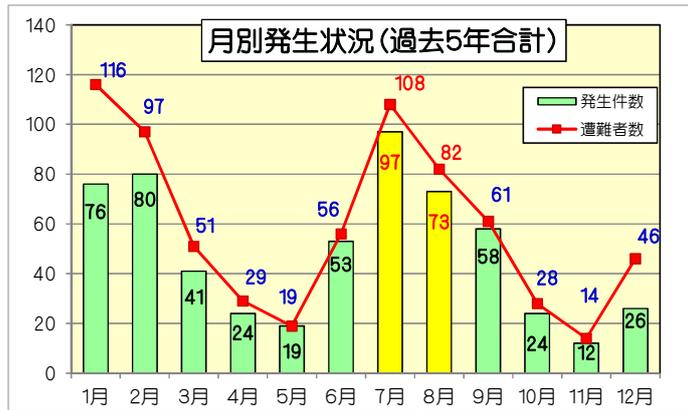
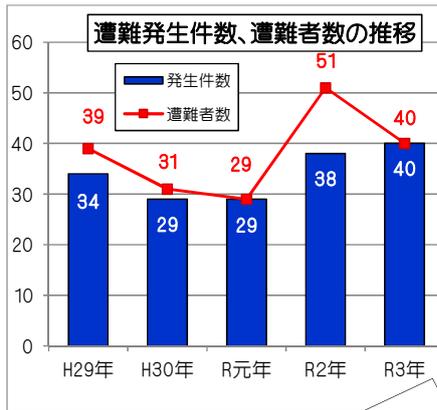
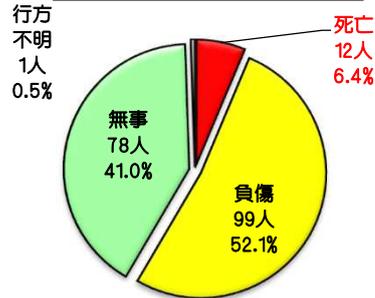
夏山シーズンにおける山岳遭難発生状況(北海道)

(夏山シーズンは、毎年7月から8月までの間)

夏山遭難発生状況(過去5年夏山シーズン)

	H29年	H30年	R元年	R2年	R3年	計
発生件数	34	29	29	38	40	170
遭難者数	39	31	29	51	40	190
死亡	3	1	4	3	1	12
負傷	25	17	16	16	25	99
無事	11	12	9	32	14	78
行方不明	0	1	0	0	0	1

遭難者の態様別(過去5年合計)



令和3年の夏山シーズンでは、40件の遭難が発生し40人が遭難しており、令和2年に比べ遭難発生件数が2件増加し、遭難者は11人減少しています。

過去5年間の道内の山岳遭難発生状況を月別で見ると、冬山シーズン以外では7月と8月に発生が多く、発生件数は2か月間で全体の3割近(29.1%)を占めています。

月別遭難発生件数(過去5年間)

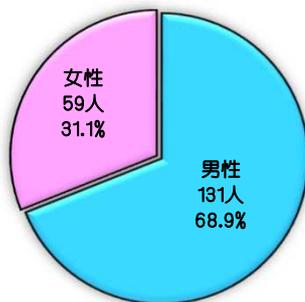
年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
平成29年	14	15	11	4	10	15	22	12	8	6	2	4	123
平成30年	16	17	12	4	1	12	17	12	15	3	2	6	117
令和元年	26	19	9	6	3	8	18	11	13	5	1	7	126
令和2年	10	15	7	1	1	5	15	23	8	5	6	3	99
令和3年	10	14	2	9	4	13	25	15	14	5	1	6	118
計	76	80	41	24	19	53	97	73	58	24	12	26	583

月別遭難者数(過去5年間)

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
平成29年	17	17	16	5	10	17	24	15	9	9	2	15	156
平成30年	29	28	15	5	1	12	18	13	15	3	3	11	153
令和元年	41	20	11	6	3	8	18	11	14	6	1	7	146
令和2年	18	17	7	1	1	5	23	28	9	5	7	4	125
令和3年	11	15	2	12	4	14	25	15	14	5	1	9	127
計	116	97	51	29	19	56	108	82	61	28	14	46	707

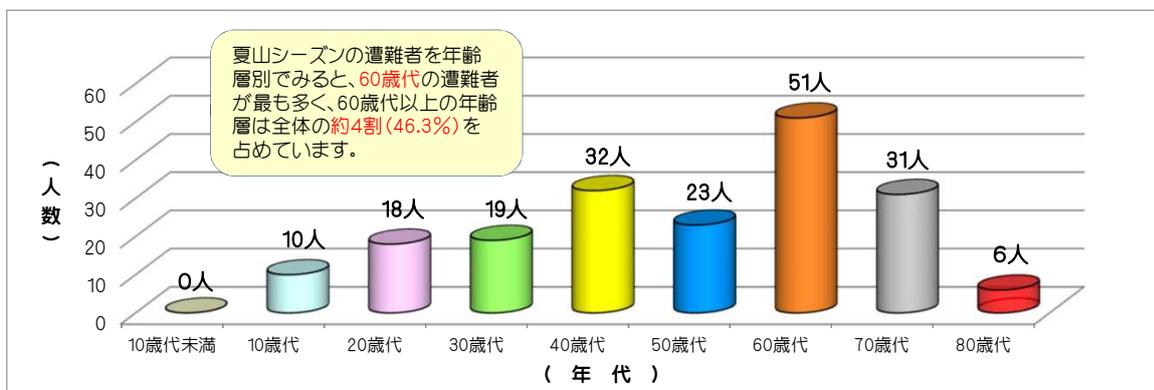
□ 遭難者の男女別(過去5年夏山シーズン)

年	男性	女性	計
平成29年	24	15	39
平成30年	25	6	31
令和元年	23	6	29
令和2年	35	16	51
令和3年	24	16	40
計	131	59	190



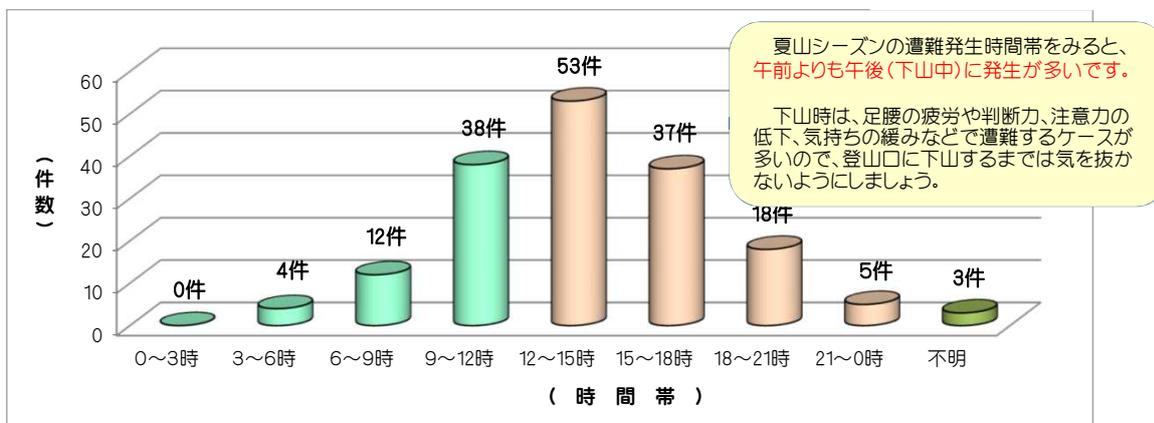
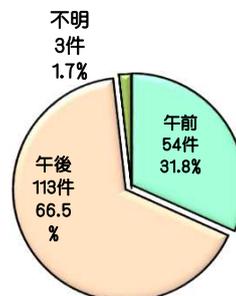
□ 遭難者の年齢層別(過去5年夏山シーズン)

年	10歳代未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	計
平成29年	0	0	2	2	4	7	17	7	0	39
平成30年	0	1	3	3	8	2	10	3	1	31
令和元年	0	1	1	2	3	5	8	8	1	29
令和2年	0	7	9	7	9	4	5	7	3	51
令和3年	0	1	3	5	8	5	11	6	1	40
計	0	10	18	19	32	23	51	31	6	190



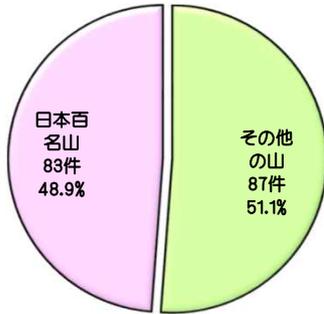
□ 遭難発生時間帯(過去5年夏山シーズン) ※件数

年	0~3時	3~6時	6~9時	9~12時	12~15時	15~18時	18~21時	21~0時	不明	計
平成29年	0	0	4	6	13	11	0	0	0	34
平成30年	0	0	5	4	8	5	5	1	1	29
令和元年	0	3	1	6	11	4	2	1	1	29
令和2年	0	1	0	12	6	10	6	2	1	38
令和3年	0	0	2	10	15	7	5	1	0	40
計	0	4	12	38	53	37	18	5	3	170



□ 北海道内の日本百名山(9山)遭難発生件数(過去5年夏山シーズン)

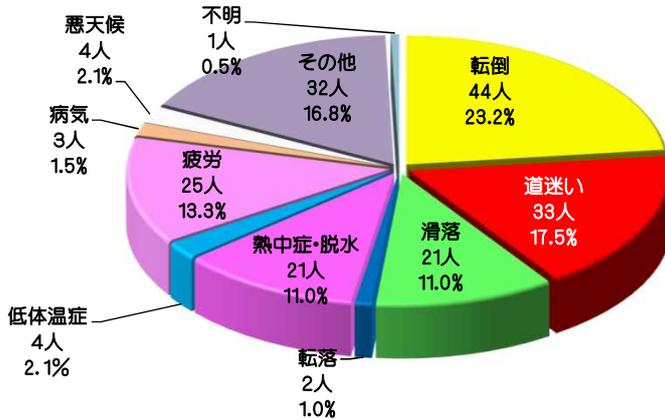
年	利尻山	幌尻岳	旭岳	トムラウシ山	十勝岳	羊蹄山	羅臼岳	斜里岳	雌阿寒岳	その他の山	合計
平成29年	5	1	3	5	1	3	1	1	0	14	34
平成30年	2	3	1	2	2	6	1	1	1	10	29
令和元年	1	0	1	3	0	2	0	2	1	19	29
令和2年	1	0	0	1	1	7	0	1	0	27	38
令和3年	5	1	1	1	1	5	3	3	3	17	40
計	14	5	6	12	5	23	5	8	5	87	170



7月、8月の夏山シーズンは、北海道では標高が高い山々の雪がなくなる季節で、日本百名山(9山)に登る登山者が多くなります。
 道内にある日本百名山(9山)のうち、登山道に火山灰や岩れきが多い旭岳、トムラウシ山、利尻山は、足元が滑りやすく、転倒しないよう注意が必要です。
 沢登りコースのある幌尻岳では、降雨による増水のほか、急斜面での滑落、転倒に十分注意して下さい。
 過去5年の夏山シーズンには、利尻山、トムラウシ山、羊蹄山でそれぞれ10件以上の山岳遭難が発生しています。

□ 遭難原因別発生人数(過去5年夏山シーズン) ※人数

年	転倒	道迷い	滑落	転落	熱中症・脱水	低体温症	疲労	病気	悪天候	その他	不明	計	その他の内訳
平成29年	17	5	2	0	4	0	2	1	0	8	0	39	体調不良、けいれんなど
平成30年	4	9	4	0	2	1	5	0	0	5	1	31	体調不良、けいれんなど
令和元年	8	5	5	0	1	0	6	2	0	2	0	29	装備不備、落石など
令和2年	5	9	4	2	5	1	8	0	3	14	0	51	ヒグマに襲われ負傷が2人
令和3年	10	5	6	0	9	2	4	0	1	3	0	40	急斜面の恐怖心、負傷が2人
計	44	33	21	2	21	4	25	3	4	32	1	190	

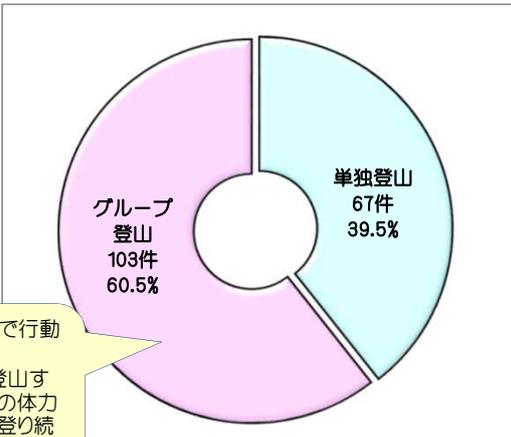


夏山シーズンの遭難原因上位
 第1位 「転倒」(44人)
 第2位 「道迷い」(33人)
 第3位 「その他」(32人)



□ 遭難者の人数構成別(過去5年夏山シーズン) ※件数

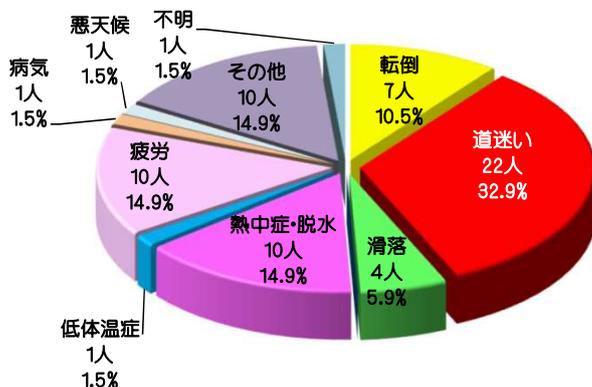
年	単独登山	グループ登山	計
平成29年	6	28	34
平成30年	13	16	29
令和元年	14	15	29
令和2年	16	22	38
令和3年	18	22	40
計	67	103	170



夏山シーズンにおける山岳遭難は、単独入山者よりも複数で行動するグループ登山における発生が多い傾向にあります。
 グループ登山は、複数で行動し、互いにフォローしながら登山するため、一見単独登山よりも安全に思われがちですが、自分の体力や体調に応じたペースで登ることが難しいため、無理をして登り続け、疲労のため転倒したり、体調を崩すなどの危険性があります。

□ **単独登山**における遭難原因別発生人数(過去5年夏山シーズン) ※人数

年	転倒	道迷い	滑落	転落	熱中症・脱水	低体温症	疲労	病気	悪天候	その他	不明	計
平成29年	1	1	0	0	3	0	0	0	0	1	0	6
平成30年	0	5	1	0	1	0	2	0	0	3	1	13
令和元年	3	4	1	0	0	0	3	1	0	2	0	14
令和2年	2	7	0	0	2	0	3	0	0	2	0	16
令和3年	1	5	2	0	4	1	2	0	1	2	0	18
計	7	22	4	0	10	1	10	1	1	10	1	67



単独登山は道迷いに注意！

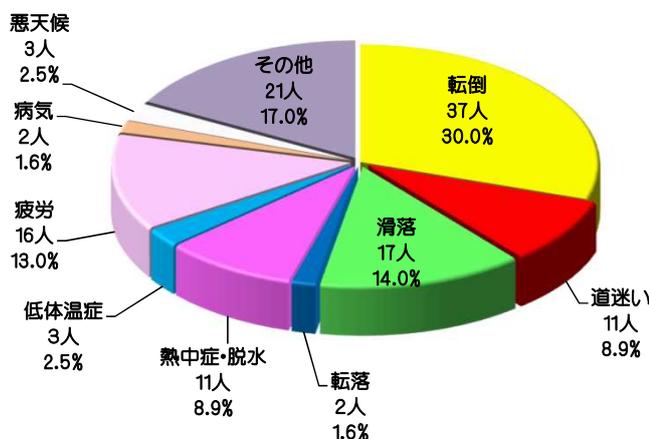
単独登山における遭難原因のうち、最も多いのは、「道迷い」です。
特に、下山時に下山方向を見失うことが多いので、道を誤らないように、ハンディGPSやスマートフォンの登山用アプリを活用するなど、現在地と下山方向を誤らないようにしましょう。
また、スマートフォンのバッテリー低下に備えて、モバイルバッテリーを携行することも、非常に有効です！



ハンディGPS

□ **グループ登山**における遭難原因別発生人数(過去5年夏山シーズン) ※人数

年	転倒	道迷い	滑落	転落	熱中症・脱水	低体温症	疲労	病気	悪天候	その他	不明	計
平成29年	16	4	2	0	1	0	3	1	0	6	0	33
平成30年	4	4	3	0	1	1	3	0	0	2	0	18
令和元年	5	1	4	0	1	0	3	1	0	0	0	15
令和2年	3	2	4	2	3	1	5	0	3	12	0	35
令和3年	9	0	4	0	5	1	2	0	0	1	0	22
計	37	11	17	2	11	3	16	2	3	21	0	123



転倒による負傷に注意！

グループ登山における遭難原因のうち、最も多いのは、「転倒」です。
グループ登山では、参加者が他人のペースに合わせて行動するため、自身の体力を超えて無理をしてしまう場合があります。
リーダーは、参加者の体力に応じた登山計画を立て、参加者の健康状態について常に気を配り、決して無理をさせることなく、場合によっては、途中で下山するなどの判断が必要です。